



展示 PICK UP

3F [エレベーターホール]

5月10日(月)～7月30日(金)



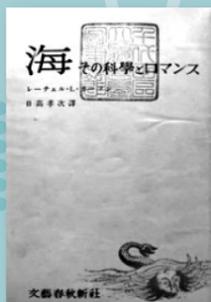
アートでSDGs
日比谷の森で考える
プラスチックと地球環境
～いま、できることから～
2021
千代田区立日比谷図書文化館

プラスチックはとても便利、けれど海を汚染し、生態系にも影響を及ぼし、プラスチック資源の循環を一層促進する重要性が高まっています。そんな中、ゴミとなったプラスチックで、千代田区の子どもと大人みんなで作ったプラスチックアート「陸・海・空」が並びます。障がいがあってもできる事に取り組み、暮らす人と働く人が助け合って作った作品や様々な取り組みから、地球のためにいま、何ができるのか？一緒に考えてみませんか。

協力：障害者福祉センターえみふる、西神田児童センター、地球の友と歩む会、三井住友海上



『プラスチック・プラネット』
● G.A=ブラッドショー 著
● 大山 泉 訳
● 評論社
● 2019年



『海 その科学とロマンス』 駿河台本
● レイチェル・カーソン 著
● 日高 孝次 訳
● 文藝春秋新社
● 1952年 ※館内閲覧のみ

「駿河台図書館」と「駿河台本」

今回のプラスチックアート作品は、4月にECOM駿河台(神田駿河台3丁目)で展示されました。神田駿河台には昭和5年から30年まで「駿河台図書館」がありました。この地域は戦災を免れ、戦前・戦後の貴重な蔵書は「駿河台本」として当館で大切に保管されています。その一部をこの機会にご紹介します。

2F [オレンジゾーン]

常設展示

SDGs 持続可能な未来をつくる本棚

SDGs(持続可能な開発目標)の理解を深め、課題解決のヒントや新たな行動へのきっかけを見つけてみませんか。



「千代田区立図書館からのお知らせ」は中面に移動しました。

▶▶ 館内では常時マスクをご着用ください。入館の際は、手指消毒・検温・入館票のご記入をお願いします。

2F [パープルゾーン] [江戸・東京]の本を集めたゾーン ～7月16日(金)

江戸の人々の暮らし

今回の展示では、展示スペースを「江戸の人々の一日」「江戸の年中行事」「江戸の芸能と文化」の三つに分け、様々な角度から江戸の人々の暮らしを想像できるような資料を紹介しています。ここでは、展示資料の中から担当スタッフが選んだ資料をご紹介します。



『江戸の人になってみる』
● 岸本 葉子 著
● 晶文社
● 2014年



『図説 浮世絵に見る江戸の一日』
● 佐藤 要人(ほか) 監修
● 藤原 千恵子 編
● 河出書房新社
● 2008年

5月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

2F [パープルゾーン] 『江戸の人々の暮らし』(～7/16)

江戸の町の人々は、どのような暮らしを営んでいたのでしょうか。この時代は、独自の習慣が多数生まれ、中には現代まで受け継がれているものもあります。当時の人々の暮らしを豊富なパネルで紹介し、私たちがより良く暮らすためのヒントを探します。

2F [エレベーターホール] 『2021.3.11-あの日をわすれないために-』(～5/14)

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。当時のことや復興の歩み、写真・文化財などの復元作業、震災から生まれたものを知ることができる資料を集めました。この震災の経験を今後に生かし将来の備えとして役立ててほしいと思います。

3F [ブルーゾーン] 『目に見える思考-超現実・超常識-』(～6/18)

「シュルレアリスム」から、日本において独自に進化した「シュール」「不条理」という概念までを紹介し、マグリットが語った『目に見える思考』を皆様に楽しんでいただく展示です。

3F [グリーンゾーン] 『癒しをさがして』(～5/14)

本を読んで気持ちが軽くなったり、リラックスしたと感ずることはありませんか。文章に癒されるだけでなく、挿絵や写真を見て旅をした気分になったり、暖かい小動物に触れたような幸福感を味わったり…。展示をご覧になった方に、やさしく温かい気持ちを感じて頂けたら幸いです。

特別研究室 ● 企画展示

内田嘉吉文庫に見る
渋沢栄一とその時代
～明治・大正期の近代日本～



三井組ハウス(後の第一国立銀行)
『三井銀行五十年史』/1926年(部分)



渋沢 栄一 『The American Monthly Review of Reviews』1902年9月号

■ 主な展示図書 ■

- 『渋沢栄一滞仏日記』(1928年)
- 『第一銀行五十年小史』(1926年)
- 『日米間海底電線布設費概算及同草案』(1919年)
- 『東京株式取引所五十年史』(1928年)
- 『風俗画報』臨時増刊 226・236号(1901年) (ほか)

入場無料

開催中～
6月30日(水)まで

※休館日:5月17日(月)、6月21日(月)
●開室時間: 平日 10:00～20:00
土曜 10:00～18:00
日曜・祝日 10:00～16:00
●会場:4階 特別研究室

calendar 開館時間:平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2021年 5月							2021年 6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			
30	31												

！
お知らせ
新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、開館時間等、掲載されています内容について変更や中止になる場合があります。最新情報につきましてはホームページ等でご確認ください。
※4月19日(月)現在、まん延防止等重点措置により平日の開館時間を10時～20時までとさせていただきます。

access
〔都営地下鉄〕
●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
〔東京メトロ〕
●丸ノ内線
●日比谷線
「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分
●千代田線
「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分
JR「新橋駅」徒歩10分
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

5・6月の講座

「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

5/8 (土) 千代田区民講座
元特命全権大使が語るモンゴル!
 講師: 清水 武則 (元在モンゴル日本国特命全権大使)

1977年から日本大使館に勤務し2016年に退官するまでの間、モンゴルに赴任すること4回。歴代で最もモンゴルを熟知した大使として知られています。教育・文化などの分野での数多くの受賞に加え、モンゴルの最高位勲章に当たる「労働功労赤旗勲章」を日本人として初めて受章しています。交流の懸け橋として尽力された講師に、モンゴルの生活や文化などについてお話しいただきます。



Photography Bayara 2016

(主催: NPO法人神田雑学大学、共催: 日比谷図書文化館)

- 日時: 5月8日(土) 14:00~15:30(13:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 60名 ■ 参加費: 無料

5/11 (火) 近代国家の礎となった伊能図
—明治期の伊能図の利用—
 講師: 菱山 剛秀 (伊能忠敬研究会 代表理事)

江戸時代に伊能忠敬等によって作られた「大日本沿海輿地全図」は、一般に「伊能図」と呼ばれ、文政4年(1821年)に完成し、幕府に上呈されました。今年は伊能図完成から200年目の節目に当たりますので、伊能図がどのように使われたかを振り返り、伊能図が作成された意義を再確認します。



第三軍管図
 『陸地測量部沿革誌』【復刻版】
 (不二出版、2013) 附図より

- 日時: 5月11日(火) 14:00~15:30(13:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 60名 ■ 参加費: 1000円

5/27 (木) 日記のたのしみ
 講師: 内沼 晋太郎 (ブックコーディネーター)

日記を書きたい、と思ったことはあるでしょうか。続けられずに挫折した経験を持っている方も、きっと多いはず。一方、本の世界では最近になって、誰かの日記をまとめた本が多く出版され、よく読まれるようになってきました。日記を書くこと、読むことの楽しみについて、お話しします。



日記専門店「日記屋 月日(つきひ)」

- 日時: 5月27日(木) 19:00~20:30(18:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■ 定員: 60名
- 参加費: 1000円 ※1月14日(木)の講座が延期されたものです。

6/2 (水) 2020年代のフェミニズムに向けて
メディア文化に見るジェンダーの問題
 講師: 田中 東子 (大妻女子大学文学部教授)

この講義では、2020年代のフェミニズムにとって、メディア文化におけるジェンダーの問題の何が課題であり、どのように分析していけばよいのか、具体的な題材を扱いながら、分かりやすく説明していく。受講後に、それまでとは世界がまるで違って見えるようになることが本講義の一番の目的である。



- 日時: 6月2日(水) 19:00~20:30(18:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 60名 ■ 参加費: 1000円

6/13 (日) 他 日比谷オペラ塾 加藤浩子が語る特別連続講座
名作オペラで知る歴史(全2回)
 講師: 加藤 浩子 (音楽評論家)

「歴史オペラ」とされるオペラは数多くありますが、作品が成立した時代と重ね合わせると、その作品に秘められた意味が浮かび上がります。「ナポレオン戦争」が背景にあるプッチーニの「トスカ」、ワーグナーが夢見た「理想のドイツ」の姿が描かれた作品「マイスタージンガー」から歴史オペラを探ります。



ヴェネツィアの
 フェニーチェ劇場の客席より

(主催: フェニーチェ劇場友の会、共催: 日比谷図書文化館)

- 日時: 前編「トスカ」とナポレオン戦争 6月13日(日) 14:00~15:30(13:30開場)
 後編「ニュルンベルクのマイスタージンガー」が描くドイツの理想 6月27日(日) 14:00~15:30(13:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 60名 ■ 参加費: 3000円(全2回分)
- ※各回のお申し込みはできません。

6/17 (木) 他 難読漢字を深掘りする(全2回)
 講師: 円満 二郎 (フリーライター)

今から3000年以上も前に中国で発明された漢字には、元々は中国語としての読み方しかありませんでした。それを日本語の読み書きに用いるために、日本人はさまざまな工夫をしてきたのです。読み方が難しい漢字も、その中から生まれたもの。難読漢字に秘められた、漢字と日本語の歴史に迫ります。



- 日時: 第1回「音読みと訓読みと当て字」 6月17日(木) 14:00~15:30(13:30開場)
 第2回「動植物の難読漢字を読み解く」 7月8日(木) 14:00~15:30(13:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 各回60名 ■ 参加費: 各回1000円

5/10 (月) こどもの読書週間 in 千代田区立図書館「ヨムキクちよだ2021」
絵本から広がる!!
～表現と社会へのまなざし～
 講師: 児玉 ひろ美 (JPIC読書アドバイザー)

絵本は赤ちゃんからお年寄りまで、クロスオーバーな読者を持つ、数少ないメディアの一つです。文学が膨大な文字数を使って表現することを、絵本は一瞬で読者に伝え、その表現方法は可能性に満ちています。お子さんへの絵本選びの最初の一步は、自分で感じる事。好奇心の扉を開く絵本、見つけませんか? (お好きな絵本を1冊お持ちください)



- 日時: 5月10日(月) 14:00~15:30(13:30開場)
- 会場: 4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員: 40名
- 参加費: 500円(千代田区民 無料)

6/5 (土) 特別研究室 ● 企画展示関連講座
古書で紐解く近現代史セミナー 第37回
渋沢栄一と後藤新平
—その「協業」から近代日本を顧みる—
 講師: 見城 梯治 (千葉大学大学院国際学術研究院 教授)

後藤新平が東京市長に就いてから、100年余りが経ちます。就任の後押しをしたのは渋沢栄一でした。官僚・政治家であった後藤と民間で産業を興した渋沢は、活躍した分野が異なっていたとも言えます。しかし、両者が「協業」をする場面も少なくありませんでした。その検討をするなかで、両者が近代日本で果たした役割を顧みていきます。



渋沢 栄一
 『第一銀行五十年小史』/1926年

後藤 新平
 『東京市政論』/1923年

- 日時: 6月5日(土) 14:00~15:30(13:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 60名
- 参加費: 1000円 (千代田区民・学生 500円)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

千代田区立図書館からのお知らせ
こどもの読書週間 in 千代田区立図書館
ヨムキクちよだ2021
 「こどもの読書週間」期間中(4月23日(金)~5月12日(水))、千代田区立図書館の各館では本に親しんでもらうためのイベントを多数開催!子どもも大人も、家族みんなで楽しめます。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

児童書展示 「いろいろのせかい」
 “色”をテーマにした子どもの本約30冊を紹介します。
 ● 期間: 開催中~5月12日(水)
 ● 場所: 千代田図書館9階=第2展示ウォール

としょかんをめぐる! スタンプラリー
 スタンプを集めた方には記念グッズをプレゼントします。
 ● 期間: 開催中~5月12日(水)
 ● スタンプ場所: ヨムキクちよだ2021の展示やイベント参加、昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館

2019年の様子



おはなしに出会えるパン屋さん
 絵本の世界をイメージしたオリジナルパンを販売します。
 ● 期間: 開催中~4月30日(金)、5月10日(月)~12日(水) ※土日祝休み
 ● 場所: 千代田区役所1階「さくらパーカリー」



2019年に販売されたパン

<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/>



5 月5日の「こどもの日」は、端午の節句にあたり、奈良時代ごろから定着した中国から伝わった節句の1つです。江戸時代、武家が中心の時代になると「菖蒲(しょうぶ)」が武を重んじる「尚武(しょうぶ)」と同じ音であることから端午の節句は武家の間で盛んに行われるようになりました。鎧や兜を飾るのは武家社会から生まれた風習で、鯉のぼりは江戸時代の町人から生まれたものです。特別研究室所蔵の『風俗画報 新選東京歳時記(下)』では十軒店(現在の日本橋室町)で五月人形や鯉のぼりが売られている店を子ども達や乳児を連れた母親が訪れる姿が描かれています。館内1階エントランスホールでは受付・コンシェルジュによる五月人形の展示も行っています。勇ましい姿をどうぞご覧ください。